

- | | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------------------|--------------------------|
| | | 三次郎
益裕次
方田謙
志木司
渡邊
河内
佐藤
本 | 護男
一郎
一眞
俊夫
新次郎
源逸 | 207
253
277
298 |
| 4 | 有機化合物の極性に関する一般的考察 | | | |
| 5 | 分子スペクトルの分類及び定理の進歩に就て | 石野 | 俊夫 | 253 |
| 6 | 分子薄膜の構造 | 石井 | 新次郎 | 277 |
| 7 | 化学工業上の新手段 | 喜多 | 源逸 | 298 |

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

第 二 卷

原 報

昭 和 三 年

物理化学の進歩 第二卷原報目次

樟腦の蒸氣壓測定(豫報).....	吉 本 晴 一.....	1
三沃化砒素の蒸氣壓測定.....	堀 場 信 吉 井 上 亮 平.....	6
還元ニッケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(豫報).....	堀 場 信 吉 李 泰 圭.....	11
特殊膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張(第一報補遺).....	堀 場 信 吉 今 堂 健 雄.....	20
結晶水の結合狀態に對する分散度の影響に就て.....	萩原篤太郎.....	23
光による膠質の生成(第一報)銀膠質の生成.....	堀 場 信 吉 陳 之 霖.....	49
銅膠質生成の新方法.....	石井新次郎.....	65
ボーラログラフによる銅錯鹽の研究(第二報).....	志 方 益 三 木 田 裕 次.....	75
ワイゲルト効果の研究(第二報)主に光鹽化銀に就いて.....	今 堂 健 雄.....	91
光による膠質の生成(第二報)銅膠質の生成.....	堀 場 信 吉 石 井 新 次 郎.....	118

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

第 二 卷

紹 介

昭 和 三 年

物理化学の進歩 第二卷紹介目次

新量子論	田村松平	1
筋肉収縮と筋肉に依る化学的作業	古谷登	39
膠質系の平衡に就て	陳之霖	62
光化学の基礎法則	市川禎治	81
最近に於ける接觸々媒理論	季泰圭	96
五酸化窒素の分解に就て(一分子反應)	城野和三郎	120
生物に對する光の作用	古谷登	137
膠質系の滲透壓	馬場日出男	161
流動性物質に對するX線的研究	藤澤米次郎	176
膠質粒子の生成及構造並に光學的異方性	今堂健雄	193
有機化合物の極性に關する一般的考察(其一)	志方益三 庄司謙次 館藤金次郎 佐木山裕次 木渡邊次護 河内山一郎 本多眞一	207
分子スペクトルの分類及び定理の進歩に就て	石野俊夫	233
分子薄膜の構造	石井新次郎	277
化学工業上の新手段	喜多源逸	238
雜報		

本輯は昨年の十一月發刊の豫定のところ
編纂の都合上大變遅れましたが次輯は豫
定通り来る三月に發行の積りで居ります。

昭和四年一月二十六日 印刷
昭和四年一月三十日 發行

(年三回刊行)
物理化学の進歩
第二卷第三輯
定價金壹圓五拾錢

編輯主幹 堀 場 信 吉
東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地
發行者 佐 藤 正 叟
東京市京橋區弓町二十五番地
印刷者 高 橋 郁

發行所
東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三五四六番
四三四三番

三協印刷株式會社印刷

京都帝國大學教授 理學博士 園 正造先生著

高等代數學

上 卷
(群 論)

定 價 金 八 圓 送 料 金 二 十 七 錢

近世代數學の劃期的發達を招致したものは實に十九世紀末に現はれた群と體との理論である。かの方程式の可解性に關する疑問や或は希臘以來未解決の儘で殘されてゐた作圖問題等に對し明快な解決を與へたものは此の理論である。更に代數學を新な展望の下に開展せしめたものも亦此の理論である。實に群と體とは現代の代數學の根幹をなし今や正に數學の一部門を形成するに至つた。尙群と體とは數學の他の部門にあつても或は奥底に潜み或は表面に顯はれて重要な役目を演ずる。されば現代の數學を究めんとする者には勿論また廣く數學の基礎的考察をなす者に取つても必要缺くべからざる概念である。而もこれに關する著述は我が國に於ては皆無である。著者はこれを遺憾として兩者を上下二卷に分ち世界に於ける近世代數學の發達を大觀し更に自らの創意を加へて本書を完成するに至つた。著者は一般讀者の爲に微細の點に立入らず努めて大綱を掲げてその本領を容易に理解せしめることに意を用ひてゐる。實に本書は近世代數學の發達とその趨勢とを一目の下に瞭然たらしめる好個の著述である。

自然科學研究叢書

第一編 高等代數學群論 定價金八圓

京都帝國大學教授
理學博士 園 正造 著

第二編 高等物理學概論 昭和四年二月發行

東北帝國大學教授
理學博士 大久保準三 著

第三編 動物發生學 昭和四年三月發行

九州帝國大學教授
理學博士 大島 廣 著

第四編 物質運動論と物理化學 昭和四年十月發行

京都帝國大學教授
理學博士 堀場 信吉 著

第五編 環の理論 昭和四年五月發行

京都帝國大學教授
理學博士 園 正造 著

第六編 昭和四年十二月發行

京都帝國大學教授
理學博士 喜多 源逸 著

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化学の進歩

年 三 回 刊 行

第一輯目次 (大正十五年十月刊行) 定價金壹圓五拾錢

化學反應の副射説。一次反應の機構に關する Roy. の説に就て.....	理學博士	堀	場	信	吉
Dalton氏分壓の定律に對する違背に就て.....	四手	井	次	太	郎
興奮水銀分子による水素分子の活性化に就て.....	近	森	誠	一	郎
電氣放電による活性水素に就て特にその化學的動作に就て.....	市	川	禎	治	
ニッケル・銅觸媒の存在に於ける水素の臨界電壓.....	李	泰	圭		
アトムストラーレン.....	城	野	和	三	郎
鹽素及び水素の光化學結合に就て.....	市	川	禎	治	

第二輯目次 (昭和二年三月刊行) 定價金壹圓參拾錢

鹽素及び水素の光化學結合に就て(第一報).....	{理學博士	堀	場	信	吉
特種の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張		市	川	禎	治
.....(第一報).....	{理學博士	堀	場	信	吉
界面電位に就いて.....	志	方	益	三	
最近の赤外スペクトルの研究.....	石	野	俊	夫	
a-Particlesによる化學作用.....	陳	之		森	
強電解質論.....	理學博士	堀	場	信	吉

第三輯目次 (昭和二年七月刊行) 定價金壹圓五拾錢

簡單なる石英又は硝子製壓力指示計に就て.....	理學博士	堀	場	信	吉
濃厚水溶液の蒸氣壓測定.....	古	谷		登	
燒付及び鑛銀により反射回折格子を作る方法.....	今	堂	健	雄	
氣態反應速度論(衝突説).....	市	川	禎	治	
赤外線吸收バンドスペクトル。最近の赤外線スペクトル					
の研究(第二).....	石	野	俊	夫	
過マンガン酸還元作用機轉に就て.....	古	谷		登	
モレキュラーストラーレン.....	城	野	和	三	郎
ラングミーアの觸媒理論.....	李	泰	圭		
光化學作用と生命.....	理學博士	堀	場	信	吉

第四輯目次 (昭和二年十二月刊行)

ポーラログラフに依る銅錯鹽の研究(第一報).....	農學博士	志方益三
混合氣體の Dalton の分壓定律に對する化學的原因に基く逸背に就て(第二報).....	理學博士	四手井次太郎
一鹽化水素—水蒸氣.....	理學博士	堀場信吉
鹽化ナトリウム並に鹽化カリウムの蒸氣壓測定.....	理學博士	堀場日出男
Langmuir 氏の觸媒理論(其二).....	李泰圭	
ゾルの流動による異方性に就て.....	城野和三郎	
コロイド粒子大さ決定に關する諸法.....	石井新次郎	
興奮水銀原子による光化學感應に就て.....	槌本朝亮	
酸化銅電極に對する Becquerel 効果の研究に就て.....	速水永夫	
化學原子價に就て(講演).....	理學博士	堀場信吉

第二卷第一輯目次 (昭和三年四月刊行)

樟腦の蒸氣壓測定(豫報).....	吉本晴一	
三沃化砒素の蒸氣壓測定.....	理學博士	堀場信亮
還元ニツケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(豫報).....	理學博士	堀場信亮
特殊の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張第一報(補遺).....	理學博士	堀場信亮
結晶水の結合狀態に對する分散度の影響に就て.....	萩原篤太郎	
新量子論.....	田村松平	
筋肉收縮と筋肉に依る化學的作業.....	古谷登	
膠質系の平衡に就て.....	陳之霖	

第二卷第二輯目次 (昭和三年八月刊行)

光による膠質の生成(第一報)・銀膠質の生成.....	理學博士	堀場信吉
銅膠質生成の新方法.....	陳之霖	
光化學の基礎法則.....	市川禎治	
最近に於ける接觸々媒理論.....	李泰圭	
五酸化窒素の分解に就て(一分子反應).....	城野和三郎	
生物に對する光の作用.....	古谷登	
膠質系の滲透壓.....	馬場日出男	
流動性物質に對するX線的研究.....	藤澤米次郎	
膠質粒子の生成及構造並に光澤的異方性.....	今堂健雄	

東北帝國大學教授 理學博士 大久保準三著

最新物理學講義

菊版約八〇〇頁

定價金六圓五拾錢

送料金貳拾七錢

本書は新制度の中等教育物理學教授要目に基いて物理學一般の知識を平易に且つ系統的に詳述して、其の概念を遺憾なく收得せしめると共に日常生活に於て屢遭遇する多くの事項をも加へ、物理學の實際的運用に資せしめんことを期した。就中其の基礎的事實並に其の原則・法則の物理學的意義を詳説し、其の根本的知識を理解せしめることに努めた。且つ物理學最近の發達をも述べ、力めて新知識を知らしめると共に、世界の物理學進歩の趨勢を明かにした。挿圖は物理學講義に極めて重要な地位を占めるものであるから、力めて多數に之を採用し、而も十分に意を用ひて直接實驗した實物寫眞を多く收め、器械器具の如きも多く實物の寫眞を以てした。尙各種類の計算を多數採録し、其の模範的解法を示し何人にも直に要領を會得せしめるやうに心掛けた。

要するに本書は著者が豊富なる學識を以て物理學全般に亘り縱横に解説したるもの、此の點に於て全く他に類書を見ないので、中等學校物理學教員諸先生にとつては實に貴重なる教授資料に富む無比の寶典であり、また學生諸子は本書によつて中學程度以上の物理學を容易に自修し得るのである。實に本書は物理學專攻者、中等學校教師、學生、高等諸學校受験生その他苟も物理學を學ばんとする者萬人必備の最高模範的講義たる良書である。